

偕行会、西スラウェシ州と病院運営で覚書

医療法人の偕行会グループ（名古屋市）は17日、西スラウェシ州と「病院運営および人材育成に関する覚書」を締結したと発表した。

偕行会は州立病院に日本式の医療・介護技術を導入し、運営を支援するほか、約2,000人の看護系人材（州職員）の育成を目指した技術指導などを行う。

西スラウェシ州の人口は135万人。鉱業や農業、漁業が産業の中心となっている。偕行会は2016年12月に南スラウェシ州パレパレ市と「透析医療技術提供に関する覚書」を締結した。



病院運営や人材育成に関する覚書を締結した、偕行会の川原真専務理事（右）と西スラウェシ州のアリ・バアル・マスダル州知事（偕行会提供）

関連国・地域：インドネシア／日本

関連業種：医療・医薬品

関連記事

- ▶ 【ベトナム】山王病院、ビンメックと健康診断で協力提携【医療】 (01/17)
- ▶ 【ミャンマー】ミャンマー初の小児肝移植、九大病院【医療】 (03/20)
- ▶ 【タイ】日本工営、チュラ大と相互協力で覚書締結【公益】 (03/11)
- ▶ 【ベトナム】民間病院、フィリップスと技術移転で合意【医療】 (02/22)
- ▶ 【タイ】プリンシパル、病院経営拡大に49億円【医療】 (01/29)

▶ ウィンドウを閉じる